

# 安曇野市天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」指定記念シンポジウム アンケート集計結果

## アンケート回収率

		会場	オンライン
総参加者数	102	91	11
アンケート回収数	65	57	8
回収率	64%	63%	73%

## アンケート設問

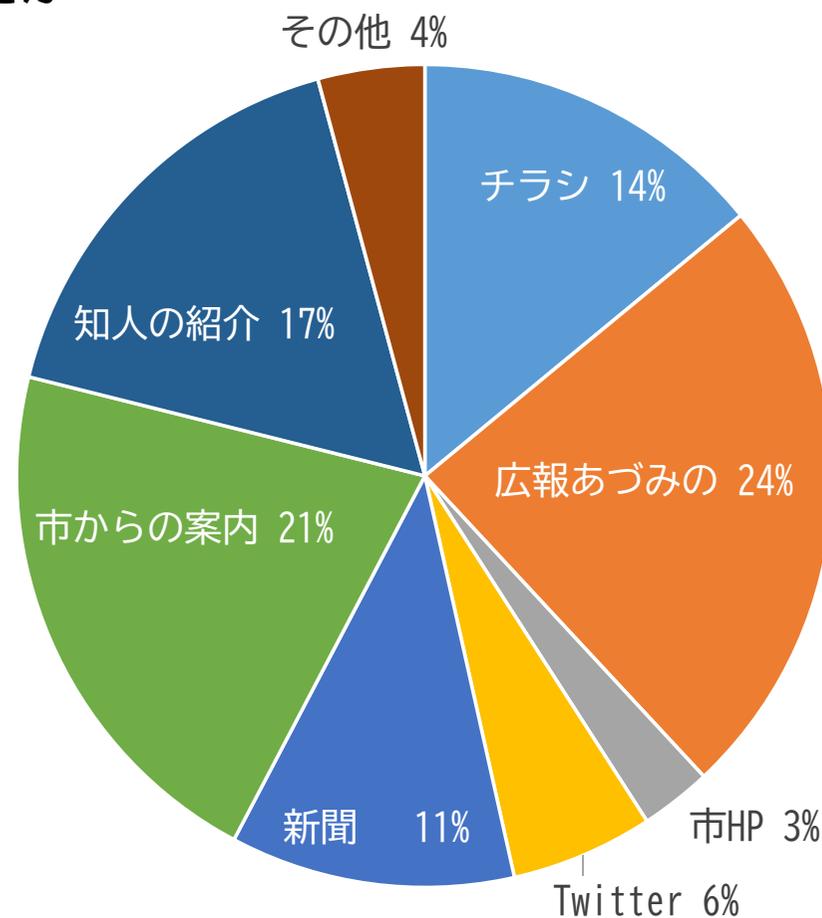
- Q1 このシンポジウムをどのように知りましたか
- Q2 お住まいはどちらですか
- Q3 年齢をおしえてください
- Q4 今回のシンポジウムの内容はいかがでしたか
- Q5 今、安曇野のオオルリシジミの保存と活用のために何が必要だと思いますか
- Q6 ご意見・ご感想など、ご自由にご記入ください

## Q1 このシンポジウムをどのように知りましたか

		会場	オンライン
チラシ	10	9	1
広報あづみの	17	16	1
市ホームページ	2	2	0
Twitter	4	1	3
新聞	8	8	0
市からの案内	15	15	0
知人の紹介	12	9	3
その他	3	3	0

※複数回答者あり

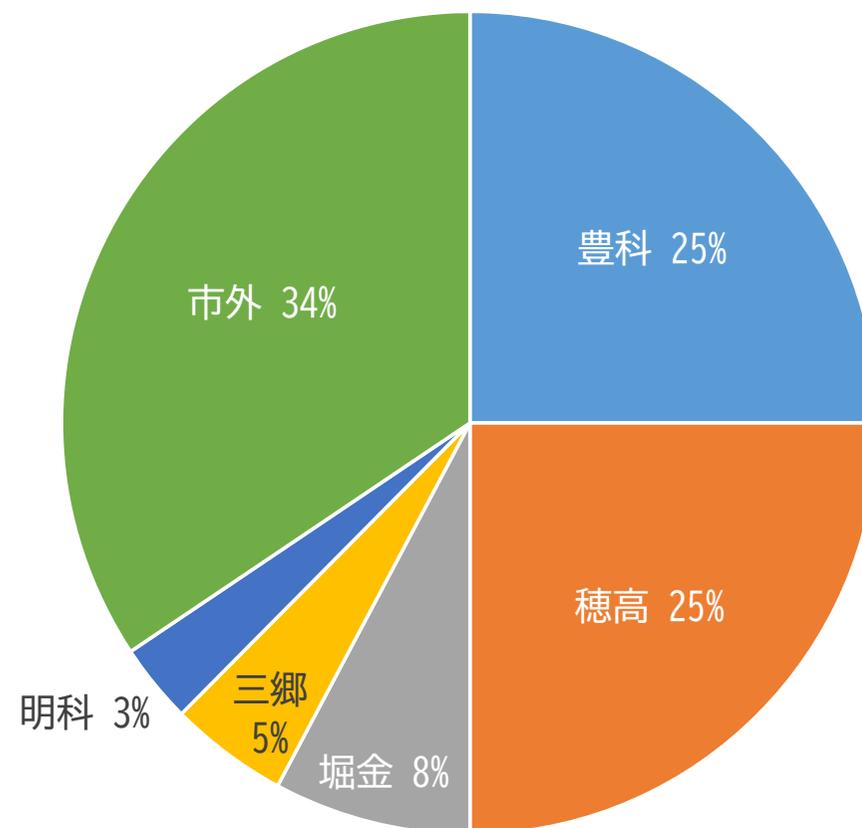
広報あづみのが最も多かった一方で、ホームページやTwitterは少なかった。Twitterは9,375回表示されているものの、そのうちシンポジウムの内容を掲示した市ホームページへのアクセス数は22件と少なかった（いずれも7月13日時点）。本文を工夫すれば、Twitterを見て参加（特にオンライン）された方が増えた可能性がある。



## Q2 お住まいはどちらですか

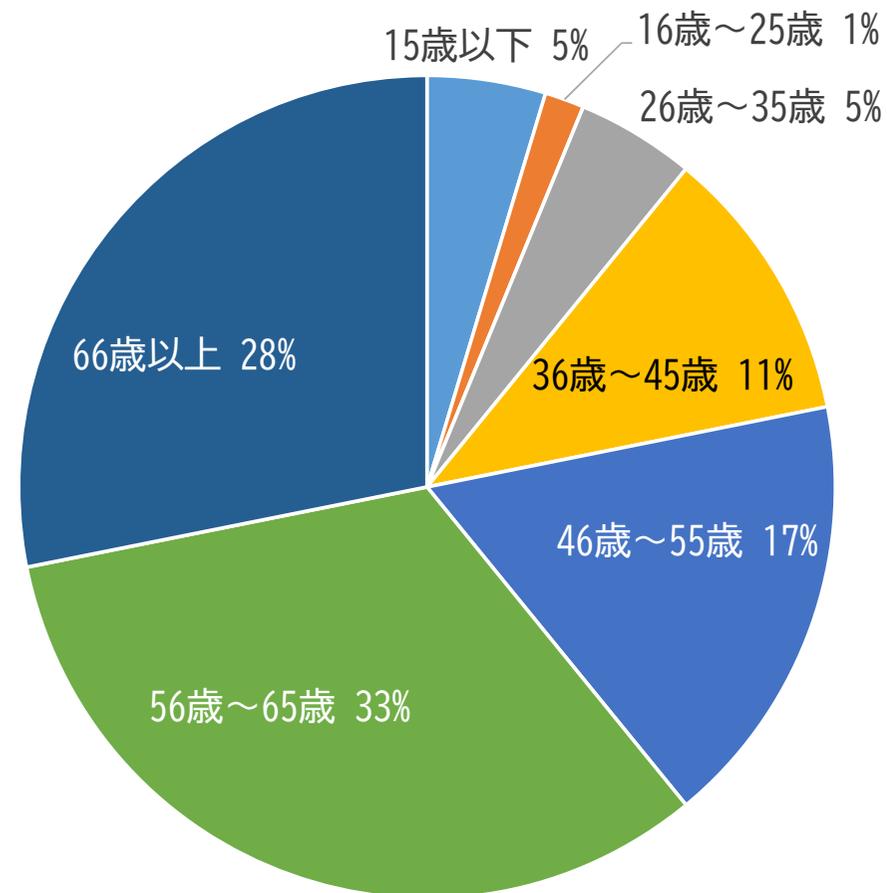
		会場	オンライン	会場参加者
豊科	16	16	0	16
穂高	16	15	1	23
堀金	5	5	0	21
三郷	3	2	1	5
明科	2	2	0	2
市外	22	16	6	24

地域ごとに関心の高さに偏りがあることが示唆された。地域に関わらず、無関心層に関心を持ってもらうための取り組みが必要である。



### Q3 年齢をおしえてください

		会場	オンライン
15歳以下	3	3	0
16歳～25歳	1	1	0
26歳～35歳	3	2	1
36歳～45歳	7	3	4
46歳～55歳	11	10	1
56歳～65歳	21	19	2
66歳以上	18	18	0

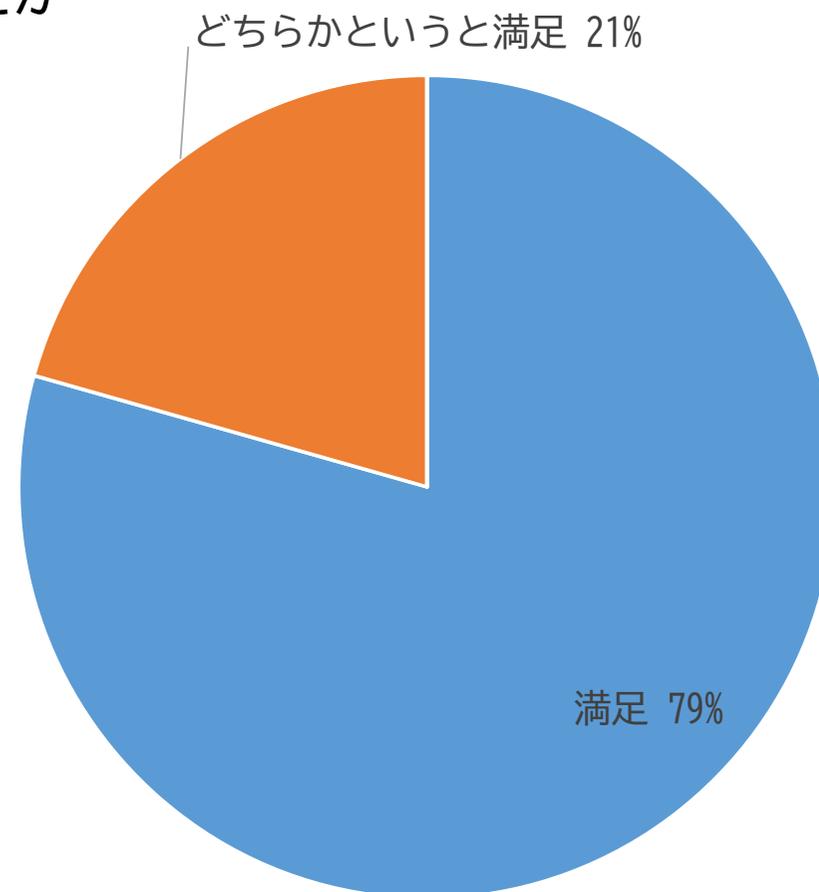


会場参加では46歳以上が78%を占めた。子供や学生、子育て世代を対象とした普及啓発手法を検討する必要がある。

## Q4 今回のシンポジウムの内容はいかがでしたか

		会場	オンライン
満足	50	44	6
どちらかという満足	13	11	2
どちらかという不満	0	0	0
不満	0	0	0

「どちらかという不満」「不満」という回答はなく、満足度が高かった。



## Q5 今、安曇野のオオルリシジミの保存と活用のために何が必要だと思いますか

(原文ママ)

・適度な広報⇒価値を広めると一方で乱獲の懸念、難しい。

・市民、住民の意識じょうせい

オオルリシジミの価値を広く知ってもらい、保全活動に多くの市民が携わるようにする。又、次の世代に引き継ぐ取組を確立する。

オオルリシジミを知らない人が多いと思う。先ず広めることが大事だと思う。

協力者を増やす

まずは広くオオルリシジミの保存・保護が大事であることの意識を持ってもらうため、定期的シンポジウムを開催し、関心を人々に広めてゆくことからだと思います。

関心をもって、できることをやる

・市民の認知・シンポをこまめに・行政の支援

クララの布及

集落合意形成と、都市部在住者の参加による里山、里地の保全活動、野焼きなども。

生物多様性の維持→市街地域も巻き込む必要があるのではないか？

環境保全、活動の普及啓発

成虫の蜜源の確保を今一度見直して頂きたいと思います。

このようなシンポジウムを数多く開催することで、市民の皆さんに知っていただくことが重要かと思います。

市民の理解と協力

安曇野は田園産業都市をうたっていますが、昨今水田がどんどん埋め立てられ、大型商業施設や住宅地に代わっています。太陽光パネル設置の計画もあり、動植物の生息地である里山、田園の面積が減少して居る事実があります。心ある人々が活動している反面、行政がこうした里山田園の減少に無関心であるのが問題だと思います。政治をまきこんだ生息地保全が必要だと思います(例をあげれば、最近OPENしたツタヤ、ケーヨーは、私の子供のころはたくさんの動植物のいた水田でした。)市民はもちろんのこと、行政や議員たちもオオルリシジミの生息地の大切さを周知することをしてほしいです。

人と人とのチョウのことを教える、ちゃんとした環境づくり

市民が負担なく楽しみながらできる、今の活動を発展 仲間を増すことだと思います。

多くの市民の協力

地域の人々の協力に加え、継続できる体制（具体的には、若年層）をい持すること

市民の力

クララのある草原の確保

人物金

植物園など” 見ることができる環境

オオルリシジミと出会うことができる施設がある

“見て、感じる”環境保全活動

私たち市民の意識が大切だと思う。

オオルリシジミに限らず、人類の生存と生物多様性はリンクしているということを理解し、生活していくこと。

情ねつ 熱意 永い努力

全体の努力

幼虫の保ゴ方法

よりたくさんの人達にオオルリシジミの存在と価値を知ってもらうための手立ての工夫

市民と行政の結びつきが大事だと指定のお話を聞いて思いました。

市民の力

農業者と農薬とのりかいと協力（農協当）

がんばる。

野焼きを一般的なこと、普通の風景にしていくこと。

農業者と農薬とのりかいと協力（農協当）

がんばる。

野焼きを一般的なこと、普通の風景にしていくこと。

それぞれの立場で貢献されているパネリストの皆様が強調された如く、多角的・多様な趣旨に沿った諸活動を応援していくのが、市民の課題であると思います。

## 周知

オオルリシジミとクララとそれを取りまく生態系の理解と多様性の保全。

多くの方々が植栽活動をし、蝶を増やしていくことが必要だと思った。

クララを増やす 移植

シンポジウムのテーマが「保存と活用」となっています。その点についての討論になっていなかったのが残念です。

・得られたこととか、困っていることを聞きたかったです。

市在住の方たちにオオルリシジミのことを知ってもらえるような活動をしていってほしい。

市民への幅広い周知（オオルリシジミ、クララを知らない市民が知っている市民より多い現状）

多くの人に知ってもらうことで保護活動を活発に。食草を育てること

環境づくり

一般市民にはまだまだ「昆虫が苦手」という人が多いと思います。そういった市民に向けて「昆虫のみを守るのではなく、環境そのものを守っていく活動である事。例えばあなたが大切にしている植物、動物、景色等も守っていく事である」という事を知ってもらう事が必要だと思います（それを前提に今回もシンポジウムを企画くださったと思いますので釈迦に説法ではありますが）

数ヶ月数年では効果ははっきりとはみえにくいですが、今後も地道な啓発の継続が必要だろとうと思います。

昆虫はトキやコウノトリ、アマミノクロウサギ等と比較するとどうしてもインパクトが弱い（一般の目線だと）。そこをどこまで「安曇野といえば水、ワサビ、玉ねぎ」から「安曇野といえばオオルリシジミ！」とまで言わしめることができるかが課題かなと思います（水もワサビも玉ねぎもじゅうぶん素晴らしいですが）。

県外からみるともっと伸びしろはあると思いますし、今回のようなシンポジウム等の外部発信も継続していくのも良いのかなと思います。

イラストのオオルリシジミがとても可愛かったので、市のシンボルキャラクターとしてどんどん人目に触れてほしいです。講演でも紹介されていたフィギュアがとても可愛かったので購入できるなら購入したいと思いました。欲をいえば、くまモンやひこにゃんのようにお土産物に組み込んだり、オリジナルグッズを作るのも面白そうです（いわゆるご当地キャラクター）。売り上げが保全に繋がるのなら購入したいと思います。

◎保存・保護に関心のある市民や地域を増やすこと、市内にある企業などの協力・協賛を得ることなど。

或いは、県内の東御市や飯山市の保護団体などとの交流を図ることなども有力な手段かと思われます。

オオルリシジミのことは全く知らない状態での参加でした。楽しい学びの時間をありがとうございます。  
保全と活用のためには認知度アップがやはり必要かなと思いましたが、これは地元では高いのかなと感じましたので（オオルリシジミがいるから捕まえちゃダメと注意されたエピソードがあったので）、こちらは問題なさそうですよね。（住んでないので分かりませんが……）

生息域を広げられると安心ですが、野焼きありきで広げると野焼きしない状態で生きてけた生き物にとってはどうなのかな？と思いましたが、いずれは増えた時に野焼きなくてもある程度増えられる場所ができるとういことです。

専門家でもなんでもないので、既に議論されてる様なことしか思いつきませんでした。

公園内の保護区の他にも、野焼きのできる生息地を確保する事だと思います。

1つ1つ保護活動は素晴らしいと思います。それらをもっともっとアピールして、まだ知らない人々に周知する機会を作ること。今日のようなシンポジウムを設ける必要があると思います。出来れば、毎回違う人々にやってもらえばいいと考えます。

市民への認知。（正しい認識）

貴重な蝶がいる事は凄いことで、市民として誇れるという事を感じてもらえると良いと思う。

様々な場所で、マークや記事等で市民が触れる機会を増やし、熱を上げていっていただきたい。

子供から大人まで楽しめる、特設ウェブサイトを立ち上げるのもいかがでしょうか。

- ・活動の紹介や案内
- ・知識の配信
- ・国営公園サンクチュアリのライブ配信
- ・ペーパークラフト
- ・クイズ(オオルリシジミ検定)
- ・FAQコーナー(教えて〇〇さん) など

オオルリシジミの天然記念物指定と計画策定で、保護と活用の仕組みが整備されたと思う。その上で本日のシンポジウムでは、登壇者らのオオルリシジミにかける熱い思いが印象的であった。保護の仕組みや枠組みは法律などで担保できると思うので、今後もオオルリシジミを守っていきたい、ともに生きていききたいという思いをどうやって未来につなげていくのかがとても大事になるであろうと思った。

## Q6 ご意見・ご感想など、ご自由にご記入ください

(原文ママ)

広める事と保護と安曇野市天然記念物のほこりにする活動！

鳥獣管理士として参加させていただきました。共通項として、里山、里地の保全の必要性を感じますが、人が少なくなっているため、対策が難しいと思います。外部からの人の導入が必要と考えますが、取り組みなど考えてまいりたいと思います。また、全体的な環境計画、環境モデルが必要と思われます。ありがとうございました。

オオルリシジミを知ることで、小さな生き物や、それをとりまく自然を大切に考えてくれる子供達がふえていってくれたら良いなと思います。

たのしかったです。かんさつバッグつかってます。

くわしく細かくおしえてもらったのでとてもたのしかったです。

クララはコンポスタの中に入れても害はないですか。コンポスタの中身を堆肥にしてもいいですか。(毒にならないですか)

オオルリシジミのみならず、多様な生き物が生存できることが大切だという考えで行動している、ということを知って安心した。

今回、シンポジウムに参加できたこと、熱意ある話を聞けた事、うれしく思います。

パネリストの方達の立場からのオオルリシジミに対する思いや活動のご苦勞を興味深くうかがわせていただきました。わが家のクララにも、早くオオルリシジミがきてくれるとよいなあと期待しているところです。

ありがとうございました。

おもしろかった。

よき契機ととらえての集会(シンポジウム)であったと感謝いたします。

今日のクララを堀金の工場におきます。

改めて安曇野の自然について考える機会となったと思います。オオルリシジミの保護にも参加してみたいです。

- ・事前のマイクチェックをお願いします。
- ・コロナ対策について、せっかくアクリル板で仕切っているのにマイクを消毒なしで受け渡しているのはいかがなものか

生きた状態で、子供時代にふれられる環境を作ることが大切だと思う。

オオルリシジミの市天然記念物指定、おめでとうございます。そしてシンポジウム開催お疲れ様でした。

本来であれば現地まで赴かなければ聴講することのできない貴重なシンポジウムを、オンラインで聴講することができ、大変感謝しております。

様々な立場の方がオオルリシジミとオオルリシジミが生息する環境を保全するための工夫をされており、素晴らしいと感じました。

演者の皆様ひとりひとりから「オオルリシジミ愛」が溢れており、素敵だなあと感じました。

いつか安曇野へ来訪し、本物のオオルリシジミを観察できたらなと思います。

このシンポジウムを紹介くださった斉藤雄太さんには大変感謝しております。本当にありがとうございました。また続編もお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

◎今回のZOOM参加で気になったことは、会場の発言者の音声小さく聞き取りづらかった気がします。

個人PCのボリュームをMAXにしても聞き取りづらかったことで、今後開催されるシンポジウムなど音声について気を配っていただければよいものと感じました。

お疲れ様でした。

シジミチョウも色々なんだなあと楽しかったです。

壇上のみなさん、オオルリシジミのことすごく大好きなんだと声でわかるくらいでしたのでそこも良かったです！

応援しています。

人と深く関わっている生き物なんだということ、改めて感じました。

今、生活のまわりにいる生き物たちを知って、大切にしていきたいと思います。

今日は貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。研究者の皆さん、地域の皆さん、行政の皆さん、各々関連性を持ちながら自主的に進められている事がよく分かりました。小生も何か一端を担いたいと思います。